

第1号

令和2年4月30日

庄和すずらん幼稚園

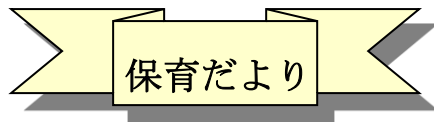
新しく入園された皆さま、そして、進級された皆さま、おめでとうございます。この“保育だより”は、すずらん幼稚園の園運営や教育理念、教育内容、教育方法、そして具体的な実践を、皆さまに知っていただく一助として、思いつくままに発表させていただく欄を“保育随想”“幼稚園情報”として、園長が担当し、毎月一回を目安に配布させていただくものです。

保育随想

★内なる自律！

令和2年度の幼稚園生活が始まりました。在園していて進級した人、森のひろば保育園、緑の森保育園、その他の施設を卒園して来た人、そして、ご家庭で過ごして来て初めて幼稚園生活に入った人など、様々な経験と経緯の中で、255名の子ども達の新しい生活がスタートいたしました。何と申しましても、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐための措置として、国からも緊急事態宣言が発せられて、予定しておりました生活の全てに近い自粛の中で保育が行えずに4月を終えようとしております。保護者の皆さま方にも、保育がどうしても必要な方に申請をしていただき、ご協力をいただく中で4月の幼稚園は50名余り子ども達で活動を行って参りました。この間、子ども達はもとより、保護者のご家族の方々の働かれておいでの職場も同じようにコロナ感染の危険の中にあります。また、幼稚園で働く先生方にとりましても同様の状況下にありますので、どなたが感染しても恐ろしく、その上、人様に感染させる立場に成ることは、もっと辛いことでもあります。身近な人たちがこの感染に合わずに、年明けから過ごせたことに奇跡とさえ感じるのであります。非常事態の終息宣言を待ち望んで居るところです。

ご専門の方々に一日も早く、このコロナウイルスに効く薬の開発を願うことしかないのではないかと不安は尽きませんが、一方で私たちが学び、やれることは無いかを改めて考える期間なのではないかと思うのであります。幼稚園でも、避難練習、交通安全教室、生活の中での怪我や事故を防ぐ学びの機会を定期的に行っておりますが、**自分の命は自分で守る！**こんな言葉を投げかけることが相応しいのかは分かりませんが、自立に向かって生きる子ども達が、出来ることを考える機会になることを願って実施しております。普段何気なく生活を送って支障もない環境下で、繰り返して育つものもあり大切な日々の営みもありますが、こんな非常事態の不自由な生活を送らなければならない時に、感じることは大きな学びになります。私たちは今の生活が当たり前、生活の基準も此処にありますので、一日も早く脱したい、そればかりでは勿体ないのではないかと思うのです。大人が与える環境や状況もありますが、子どもが考える生活や思うことが、きっと有るはずで。何も出来ないのではなく、何もないところから遊びを見出す。生活を創り出す力を大人が奪うことは、この時代の子育てに禍根を残すことになります。こんな時こそ、子どもの中から湧き出る心に寄り添うことが、コロナに対する心構えの育ちにも成るのかと思います。私たちも不自由をしのいで過ごして参りましょう。



第2号

令和2年5月29日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 意識して生活したお陰で！

新型コロナウイルス感染の恐怖で、生活のさまざま処で注意をしながらの生活を送って今に至っております。連日の報道もいろいろな見地からの放送で、自分の地域、自分の生活に結びつける実感に乏しく、一人一人がやれることは、いわゆる三密を避けること、感染しないように、そして感染させないようにする意識で過ごして参りました。

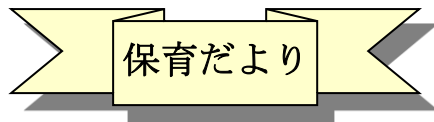
このところで国から自粛解除の具体的な道筋が発表されました。6月1日より第1ステップ、6月19日より第2ステップ；他県との行き来の自粛の解除、第3ステップ、人との距離を注意することを求めながらも、観光振興での他県との行き来も自粛解除、8月1日までの移行期を経て全面自粛解除の宣言が出されました。

埼玉県や春日部市からの通達が頻繁に送られて来るところですが、それを受けて、小学校以上の新型コロナウイルス感染防止対策の取り組みとして、感染リスクを出来るだけ少なくすべく、校長先生から送られてくる学校だよりを拝見しながら、保護者の皆さまに協力を要請しながら、努力されていることに敬意を表するところであります。

一方、幼児期の生活する幼稚園では、この自粛宣言解除の前から、医療に従事する方やインフラ関係の方につきましては、申請をしていただく中で、お子さんの生活は続けて参りました。多くの保護者の皆さま方の自粛要請にご協力いただく中で、全体の五分一のお子さんが室内の活動はもとより園庭での活動は今までと変わらない生活を送って参りました。幼稚園の生活では、子ども達が遊びを創り出し、子ども同士の育ち合いの中で、教育が成り立つのですから、密閉した空間、密集した場所、密接触、いわゆる三密状態から避けられない施設なのであります。ご存知のように感触の時代であり触れ合って、話し合っただけの活動や遊びや作品が作り上げられる生活でありますので、幼児期の学びの方法が、小学校以上と大きく異なるところにありますので、この育ちの方法を取り上げてしまうことは、この時期に育てたい意欲が育ちにくいこととなります。

国、県からの自粛解除から感染の第二波を迎えないために、一人一人が引き続きの注意は必要であります。先にお知らせ致しました年長組さんの、お泊り保育につきましては、第3ステップの中にあることにも考慮して、実施させていただくことで再計画をすることに致しました。夕涼み会につきましては、趣が違いますので、残念ですが中止と言うことで、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

どなたもが、目に見えないウイルスとの戦いに、閉塞感を余儀なくされている日々であります。こんな時期も生き抜く知恵と勇気をもって生活する気概だけは失わないことが大事なのかと思えます。皆様方の慎重にされている生活のお陰で、家族も職場も、地域もウイルスから守られております。幼稚園も2ヵ月遅れでの令和2年度が本格的に全員でスタート出来る時を迎えられたことに喜びを感じ、一人一人の成長を楽しみながら、一日一日を応援して参りたいと思えます。よろしくお願ひいたします。



第3号

令和2年6月30日

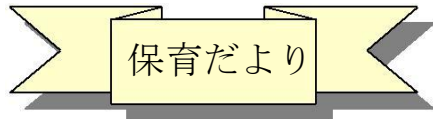
庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 元気があれば何でもできる！

先日、地域の園長会が開催されまして、それぞれに保育の形態や夏以降の行事の在り方について、園長先生方の思いを聞く機会になりました。私学ですから園の独自性が保証されている中で保育は進められておりますが、6月は正に手探りで、活動の在り方も進めてきました。自粛の緩和はされて来ましたが、まだまだ、感染のそれが無くなった訳ではありませんので、引き続きこれまでの手洗い、うがい、体温測定などの習慣を続けながらも、幼稚園教育の特質とも言える、子ども同士が育ちあう場面を取り除くことは、幼児教育が成り立たなくなってしまうので、言われている三密の距離感は保てないのです。この辺もご理解いただきながら、これからの活動や行事についてもご理解をいただきたく思います。地域では、毎年行われている市民体育祭も中止の連絡をいただきました。誰にも予測がつかない感染拡大や納まる流れに対応して行くことは難しいのですが、すべての方が思い通り、予定した通りの生活を望んで居る中で、それぞれが知恵を出して、この時期を生き抜いておられるのです。すずらん幼稚園の三つ目の教育目標にも掲げました、**生活を創造する！**ことは、何気ない毎日の生活、そして、いつもと違う生活の中にも喜びを見つけて生活する力を身に付けましょう！という願いなのですが、仕事が面白い！草花を見て庭や室内に飾る喜び！子ども達の話に和まされる！部屋の整理をして雰囲気を変えてみる！私の周りにも幾つかの喜びが見付かります。ある人は、元気のスイッチを持ちなさい！と言われました。自分のスイッチ一つで明るく世界が変わります。そんな気持ちで、今の自分を取り巻く環境を改めて見てみますと、今までと比べて行動の自由が制限されていることによる閉塞感は大きいと思います。集団生活においても時間をかけて学び気付く経験が無いままにふた月が経過しておりますので、当然、私たち指導に当たるものとしても、段階を踏みながら、お仕着せにならないような配慮もって、一人ひとりに寄り添うことに心掛けております。また、子ども達の育ちを支援する立場からも、安全を意識するあまり経験させられる機会を失うことも、残念な事に成りますので、幼稚園といたしましては、出来るだけの安全には配慮しながらも、育ちの活動への挑戦をして参りたいと思います。今回のお泊り保育の実施につきまして年長組の保護者の全員の皆さま方から、ご参加の意思を頂戴いたしました。子ども達のエネルギーや伸びようとする意欲に答えて、十分に準備して精一杯の活動になるようにしたいと思います。子ども達の成長のスピードは大人たちの7倍とも言われます。

私たちの役目は、安全な環境の中で意欲を育て、自ら活動の楽しさを見付ける生活を支援するところにあります。いろいろな判断の基準は分かれるところではありますが、日本を代表する起業家の方々が、異口同音にお話ししております。いろいろな困難に出会っても、**元気があればなんでも出来る！**こんな時期ですから元気な自分の掘り出しに努力致しましょう。身近に居てくれる子ども達を見習って！

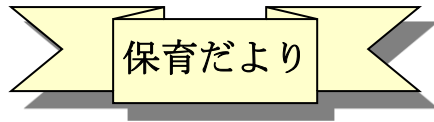


第4号
令和2年7月21日
庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 不透明な世の中で！

コロナウイルス感染予防の為の生活は、年が明けてからの半年間、恐怖と共に自分の生活を見直す期間でありました。年度末の卒園式、そして新年度の入園式、始業式の頃までは感染者数や地域が限られていたこともありましたが、三密を避ける気運が高まって来まして、幼稚園の活動でも誕生会などの折には、体育館での集まりを避けてクラス毎でのお祝いの形を執って参りました。しかしながら幼児期の学びは自らの体を使って獲得しておりますので、多くの場合、いわゆる学校形式での学びには限界がありまして、心情、意欲、そして態度の育成の流れも、友達同士で遊びの中で触れ合って、学びあい、育ちあう過程が必要不可欠なところがあります。普段の生活に多くの規制を掛け過ぎますと子どもの自由な発想や遊びの広がりや発展も失われますので、楽しくなくなるのです。幼稚園の大事などころは、そこの意欲を育てる関わりが生命線なのであります。自分が思うように関わってくれたら子どもは伸びる！これは、子どもに限らずの話かも知れません。私達は子どもの変化する喜びを味わいながら日々送っております。いつも子ども達の心情に寄り添う毎日とも言えるのですが、子ども達から教えられる発見が楽しくも面白いのです。話が幾らか横道にそれましたが、コロナ防止対策とGO TOキャンペーンなる景気回復策との背中合わせのような流れの狭間の中、どなたも立場、立場で賛否両論、何を優先すべきかも迷うところでもあります。この度の年長組さんの、お泊り保育の実施も、内容の違いはありますが、大いなる問題でありました。そこに、年長組さん全員の保護者の方から参加申込書を頂いたことは、大きな支えとなりました。近隣の幼稚園、保育園の同様の行事が押しなべて中止、若しくは部分活動で進めている中で、二度とない年長組さんのお泊り保育は、どうしても経験させたい！普段の生活では経験できない特別な学びをさせてあげたい！この一点でありました。ご案内する私共も感染の恐れは感じながらも、ご案内申し上げたところです。参加してくれた子どもが、体の不調もなく初めての環境で初めての生活をしながら、一生懸命に遊ぶ姿や歌声に感動して涙が出る思いの生活でした。そして、楽しかった！と言う声と笑顔に、一層の喜びを頂きました。このお泊り保育も子ども達にとりましては、初めての事への挑戦の機会が沢山あったことと思います。何をすすめるにも目的を明快にして、御旗の印を掲げて進めることを、私達も学びました。いろいろと心配事は出てくるものですが、何を大事にするのか！一番したいことは何なのか！の順番を決めて進む積み上げは、自己肯定感を作り上げてゆく道りなるのであろうと思います。幼稚園全般の生活を通しての願いではありますが、取り分け、今回のお泊り保育が実施できたことでの、子ども達の育ちを考えますと疲れよりも心躍る二日間になりました。先にも申し上げましたが、保護者の皆さまと一緒に心配して事に当たられたことも嬉しい嬉しいお土産になりました。私は、今回のお泊り保育を、挑戦！と位置付けて参りましたが、夏休み、そして二学期の子ども達の経験や活動・行事にも何を大事にするのかを中心に置いて、今回の学びを生かして参りたいと思います。



第5号

令和2年9月30日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 一人ひとり！

スマップの歌に、世界に一つだけの花と言う曲がありました。

花屋の店先に並んだ いろんな花を見ていた ひとそれぞれ好みはあるけど どれもみんなきれいだね この中でだれが一番だなんて争うこともしないで バケツの中誇らしげに しゃんと胸を張っている それなのに僕ら人間は どうしてこうも比べたがる？

そうさ僕らは 世界に一つだけの花 一人ひとり違う種を持つ その花をさかせることだけに 一生懸命になればいい 小さい花や大きな花 一つとして同じものはないから

No.1にならなくてもいい もともと特別な only one ラララララ

幼稚園生活の全てに流れる、ずっと続けて来た精神であります。取り分け集団で行う全体の行事や活動では、集団の流れに目が行き、個々との対話が不足しがちな状態にも陥りやすくなることは、一方で気を付けなくてはいけないことであります。集団教育の効用を期待して、子ども達同士で支えあう中で楽しくも、意欲を育てる生活であり、行事でありたいと思います。何人いても一人ひとりの一対一から集団も始まるのです。一人ひとりを良く知ることは保育の世界に限ったことではありませんが、生きる上で何よりの喜び、そして、これからは続く大事な柱と位置付けて、周囲との距離感や心情を思いやる学びを、失敗しながらも繰り返し、歓びを見付け意欲につないで居る子ども達です。トラブルの解決にも、大人が裁判官のスタンスだけでは、子どもの気持ちは収まりません。解決にはなりません。それぞれの事情に寄り添ってくれる人がいて、その時に心は動き、考えるきっかけになります。人は生きる力が備わっているものです。その時の状況や関わりにも、きっと冷静に自分で評価できる時がやってきますので、少し先を見ながら関わって行く必要がある場合も多々出てきます。出来るか出来ないかではなく、どの様に向き合うかを一緒に考えてくれる隣人が、その時に必要とされる存在であることを思うとき、謙虚な姿勢で寄り添う存在でありたいと思うのです。経験することに無駄はないと言われますが、悩み苦しんでいる人に気付き、前に歩き出せない姿を今一度、思い起こして、一緒に生きる気持ちを忘れないで生きていきたいものです。一人ひとりが、特別な only one なのですから。

三日後に迫った運動会ですが、コロナ禍ではありますが、幼稚園で生活する子ども達は、お陰様で感染はしておりません。そして、お子さんを送り出して頂く、ご家族の皆さまも、当然、その兆候もなく感染とは縁のない方々です。園庭にお集まり頂くお子さんとご家族のみの催しとして、幼稚園生活の延長線上での総合活動として、思う存分運動会を楽しみ経験して貰う気持ちで、活動してまいりました。先にご案内した通り留意すべきことには、配慮して、保護者の皆さまの協力の中で、子ども達の運動会を体験させて頂きたくお願い申し上げます。運動会の体験は、友達と仲良く生活することの喜びを感じてくれることでしょう。

一人ひとりの運動会に挑戦させてあげてください。